



馬頭町広重美術館ニュース〈準備号〉

風の色



歌川広重筆「向島花見図」(部分)絹本墨画着色 33.1×95.1cm

向島は隅田川上流の東側にあり、神社仏閣が点在し、庶民の憩いの場所になっていました。川沿いの堤には桜が植えられ、春には桜の名所としても有名でした。その堤を、豊かな隅田川の流れを背景に、多くの人が行き交っています。日よけの傘をさして歩く娘や両手に団子を握りしめる男など、それぞれが思い思いに桜を楽しんでいます。画面右奥に見える水神社の鳥居付近にも散策する人々の姿が小さく描かれています。

広重の肉筆画の中でも非常に緻密な表現の作品です。



美術館が完成

平成9年2月に関西在住の青木藤作氏のご遺族から寄贈を受けて、整備を進めてきた美術館新築工事がこの3月に完成しました。美術館は、歌川広重の肉筆浮世絵・版画など青木コレクションを中心とする美術館で、住民の皆さんの文化活動の充実と国内外の美術館との交流が円滑に図れるようなネットワークを考慮しながら、町の中核的文化施設、さらに八溝地域の活性化につながる広域的文化施設とすることを目的に建築されました。設計は1997年日本建築学会賞を受賞された隈研吾氏、工事は株式会社大林組東京支社が担当、美術館構想づくりから美術館の落成まで3年を要しました。美術館は、半年間の養生期間を置いて11月3日開館します。

外観は大屋根と格子

美術館は「広重の芸術と伝統を表現する伝統的で落ち着いたのある外観」をデザインのコンセプトに、ゆったりとした平屋

建てで、屋根と底をできる限り低くすることにより周りの景観から突出しないで、町の自然に溶け込むように配慮しました。そのために大屋根を用い、美術館全体を格子状の木材（八溝材ルーバー）で取り囲みました。これは、建物を全て格子で作ることで建物自体が光の受容器・光のセンサーとなることを目的としています。広重の浮世絵は、自然の状態や変化の可視化を特徴としています。光、風、雨、霧といった自然の要素は曖昧で、輪郭がはっきりせず、たえず変化していますが、広重はこれらを見事に可視化しました。広重の方法を応用して、美術館自体が自然のセンサーになるような建築づくりを目指しました。

また、美術館北側に広がる森の豊かな自然や森と美術館との間の借景庭——美術館内部のオープンギャラリーから開ける眺望もまた「重要な展示品」と考え、この美術館を馬頭の文化と自然を結びつけるものと位置づけました。

開館記念 「広重肉筆画名作展」

歌川広重は、名所絵で人気を博し、現代でもなお高い評価を受けている浮世絵師の一人です。1万点以上の作品を残しましたが、風景版画を大成させたという点に重きをおかれ、これまでの研究や展覧会は版画を中心に行われてきました。

しかし、肉筆画においても、絹本に描かれた作品は多くはあ

りませんが、いずれも質の高い作品を残しています。広重の肉筆画を40余点所蔵する馬頭町広重美術館では、開館記念として「広重肉筆画名作展」を開催します。広重の肉筆画のみの展覧会は、世界で初めて開催されるもので、ヨーロッパからの里帰り、新発見、本邦初公開の作品や広重ゆかりの遺品が展示されます。

●会 期／11月3日(金)～12月3日(日)

●特別展観覧料／一 般 1,000円(900円)

高・大学生 600円(540円)

中・小学生 200円(180円)

()内は、20名以上の団体1人あたり

第一級の展示環境

展示室の照明は、全て光ファイバーを用い、作品の良好な保存と高い演色性を両立しています。展示ケース内照明も、一般的な美術館用蛍光灯ではなく、樹脂系光伝送パイプを用いたハロゲン照明を世界で初めて採用しました。この照明方式は、特殊フィルターと照明スペースの換気システムを併用することで、作品の保存科学的な見地や色、質感の再現性では、世界的に見ても第一級クラスの展示環境を実現しています。

また、木材をはじめ床に白河石(芦野石)、壁に烏山和紙と美術館内外の仕上材のほとんどに地元産の素材を用いるなど、地域性や歴史、地場産品の振興にも配慮しました。



さらに、高齢者、身体障害者が利用しやすいようにバリアフリーとし、ハートビル法の認定施設になりました。

展示室は2室

美術館は、乾徳寺・静神社・県指定史跡武茂城跡、馬頭小学校、馬頭院などに囲まれた町市街地の北側の文教地区に、鉄筋コンクリート鉄骨造地上1階、延床面積1,962㎡で建てられました。建物は駐車場からの南北に伸びる街道(広重街道)によって、美術館本体とレストラン・ショップに分けられます。

展示室へは、エントランスホールの受付を経て入ることになります。展示室は2室で、面積は合わせて約370㎡あります。展示室1には主に歌川広重の作品が展示される予定です。浮世絵作品の性質上長期の展示ができないため、70点あまりの作品を5週間～6週間で展示替えを行い、年間10回程度の展覧会を計画しています。

日本を代表する建築家 隈 研 吾 氏

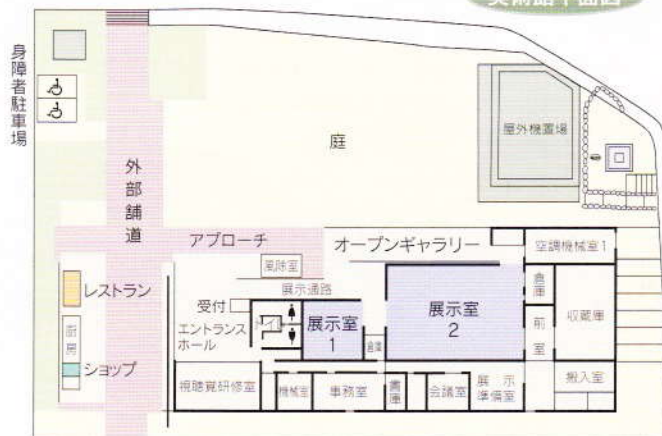


隈研吾氏は、宮城県登米(とよま)町伝統芸能伝承館・森舞台で1997年度日本建築学会賞を受賞、高知県梼原(ゆずはら)町地域交流施設で同年度通産省選定「新しいなかデザイン賞」大賞を受賞するなどの実績を有する日本

を代表する建築家です。美術館の設計者には、プロポーザル方式により選定されました。

隈氏は、昭和29年横浜生まれ、1979年(昭和54年)に東京大学建築学科大学院を修了され、コロンビア大学客員研究員を経て、隈研吾建築都市設計事務所を主宰されています。1998年(平成10年)には、慶應義塾大学特別招聘教授を努められ、現在は建設省建築審議会委員の要職にあります。自然と技術と人間との新しい関係を切り開く建築を提案されています。

美術館平面図



レストラン・ショップの営業業者については、公募を実施し那須八溝物産株式会社に決定し、その名称は「雪月花(せつげつか)」と決められました。

記念講演会 国際シンポジウム

馬頭町広重美術館の開館を記念して講演会・国際シンポジウムを町総合福祉センター集會室を会場に開きます。

●開館記念講演会/11月11日(土) 13:30～17:00

「浮世絵風景画と広重」

国際浮世絵学会会長・立正大学名誉教授 山口桂三郎

「北斎と広重」

学習院大学教授・千葉市美術館館長

小林 忠

●国際シンポジウム/11月12日(日)9:30～17:00

◆パネラー報告 9:30～12:30

「日本美術史上の広重の位置づけ」 東京大学教授・河野元昭
「広重とジャポニズム」

カルフォルニア州立大学教授・ジュリアン・ウォルフグラム

「広重と名所絵」 国立歴史民俗博物館助教授・大久保純一

「広重の肉筆画と天童広重」 当館学芸員・市川信也

「広重と円山四条派」 大英博物館・ティモシー・クラーク

司会・小林 忠 (敬称略)

◆討論・総括 14:00～17:00



館長に稲垣進一氏

美術館の初代館長に、国際浮世絵学会常任理事・編集委員の稲垣進一氏に就任をお願いしました。

平成10年9月には本町で講演会を開いていますのでご存じの方も多いと思いますが、稲垣氏は昭和11年、東京に生まれました。

日本大学芸術学部美術学科を卒業後、広告代理店でデザイナーとしてデザイン各賞を受賞されるかたわら浮世絵を収集、研究するようになり、今日に至っています。

「カラーブックス中山道昔と今」(保育社)、「図説浮世絵入門」(河出書房新社)・「江戸の遊び絵」(東京書籍)など浮世絵に関する多くの著書でも知られています。

「世界に情報発信をし、町民に愛され、開かれた美術館にしたい」と抱負を語っています。

美術館ボランティア募集中

広重美術館は、地域の皆さんに親しまれ、開かれた美術館にしたいと考えています。そして、皆さんが何らかの形で美術館にかかわっていただく機会を設けたいと考えています。そのひとつが「美術館ボランティア」です。

広重美術館のボランティア養成講座は、一昨年12月に施設の内や管理面など美術館の運営にかかわる人員の確保を目的に開設し、月1回のペースで美術館や浮世絵についての学習などを中心に進めてきました。受講生は、30歳代から70歳代まで幅広い年齢層で構成され、町内・外から約40名がオープンを目指し、熱心に学習してきました。実際の美術館でのボランティア活動の検討を始めましたが、2週間に1日程度の活動を想定すると、現在の受講生だけでは絶対数が足りない状況です。これからでも間に合いますので、今年度のボランティア養成講座にぜひ皆さんもご応募ください。そして、皆さんが各種講座や自主的勉強で得た知識を生かす喜びの場として美術館を活用ください。

生涯学習の時代と言われている今日、皆さんが学習をしながらその成果をボランティア活動に生かすことは、来館者との交流により、いっそうの学習意欲を触発し、さらなる自分の開発や実現につながるものと考えられています。美術館ボランティアにぜひご参加ください。

美術館ボランティアの主な内容

- ◆案内業務 美術館館内案内、町観光案内、各種受付、展示解説 等
- ◆施設管理 展示室監視、清掃、生け花 等
- ◆資料整理 他美術館の情報、雑誌情報等の整理 等

- ホームページを開設しました。ぜひご覧ください。
<http://www.hiroshige.bato.tochigi.jp/>

シンボルマークは福寿印

ロゴは、日本の伝統的な明朝体をベースに館長の稲垣進一氏が考案したものです。また、シンボルマークは、歌川広重の作品の中に使われている印章・文字絵福寿印とすることにしました。



福寿印は、「福」の字を鹿のかたち、「寿」の字を馬のかたちに描いた文字絵で、馬頭の「馬」と町花「福寿草」とを合わせ、シンボルマークとして親しみが感じられます。まるで、広重が馬頭町広重美術館のためにデザインしてくれたようです。

友の会会員も募集中

美術鑑賞や美術館、浮世絵や歴史に興味をお持ちの方、もっといろいろなことを知りたい方、馬頭町広重美術館友の会へ入会されませんか。友の会は、研修会や美術館巡りなどを通して会員相互の交流を深め、美術をより楽しく、身近なものとするとともに、豊かな生活を創造する場でもあります。

■会員の特典

- (1) 常設展・企画展が無料で何回でも観覧できます。
- (2) 友の会が会員を対象として主催する鑑賞旅行、講演会、講座等に参加できます。
- (3) 会報、美術館ニュース、展覧会スケジュール、企画展案内などをお送りします。
- (4) 会員証でミュージアム・ショップ商品の割引が受けられます。
- (5) 広重ほか美術館所蔵作品入り名刺の印刷幹旋をします。

■会費

●一般会員(一般)	年額	3,000円
(学生)	年額	1,500円
●特別会員(個人)	年額	10,000円
●特別会員(法人)	年額	一口 30,000円

美術館の利用案内

- 開館時間／午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日／毎週月曜日。祝日の翌日(祝日の翌日が土、日曜日は開館) 年末年始(12月28日～1月4日)
※展示替えのための臨時休館があります。
- 観覧料(企画展・通常展)／
大人 500円(450円) 高・大学生 300円(270円)
小・中学生 100円(90円)
()内は、20名以上の団体1人あたり。
※特別企画展の場合は、別途になります。小学生未満は無料です。

馬頭町広重美術館
ニュース
準備号

平成12年3月30日発行
編集発行／馬頭町美術館準備室
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭116-9
TEL.0287-92-1199 FAX.0287-92-7177